北九州市民の会

2021. 7 №61 （1）

平和とくらしを守る北九州市民の会

〒803-0817 小倉北区田町13-21 田町ビル３Ｆ
TEL 093-592-5000FAX 093-571-4346

ＷＥＢ：http://siminnokai.com
e-mail：koe@siminnokai.com

北九州市民の会　検索

コロナ電話相談会（第８回）

九州各地から62件の相談が殺到！

今回は20時まで対応

高齢者福祉乗車券を求める請願

時間延長で20時まで対応

昨年4月から２ヶ月に1度、継続して実施し今回で8回目となる「コロナ災害を乗り越える　なんでも電話相談会」を6月12日（土）に実施しました。この間は10時～17時までの対応でしたが、17時以降も相談電話が殺到している全国の状況をふまえ今回は北九州市社保協でも20時まで延長して相談を受けることとしました。地元マスコミ取材のＴＶニュースやＮＨＫが事前の全国放送番組内で告知したこともあり、福岡はもとより九州各地から相談電話が相次ぎました。17時以降も電話が鳴りやまず20時終了時点で62件の相談をうけました。

電話が鳴りやまず・・。
４回線フル稼働の相談会会場

制度あって支援なし「生活困窮者自立支援金」

今回、特に多かったのが「生活困窮者自立支援金」についてでした。「社協の貸付を借り切った。支援金は申請できるのか？」「受給できる要件は？」「政府が今、言っている自立支援金の内容は？いつからどこで受け付けるのか？役所や社協に聞いてもはっきりしない」などコロナ禍が長期化する中、困窮のひっぱく感が増す方々からの相談や質問が多数寄せられ、切実な状況がひしひしと伝わってきました。新たに始まるこの支援金制度はそもそも、特例貸付を受けた人だけが対象で受給要件もかなり厳しく（生活保護基準に近いレベル）でさらに単身月6万円の最大でも3ヶ月という生活困窮から立ち直るにはほど遠い支給金額となっています。政府も対象者は全国で20万人程度と踏んで600億円しか予算計上していません。国が詳しい内容も知らせないまま発表した関係で自治体も対応に苦慮している状態です。内容や要件を説明すると「そんな使えない制度を作って政府は本当に国民の生活を守る気があるのか！」と怒りをあらわにする相談者もいました。

まだまだ忌避感のある生活保護

いよいよ生活が行き詰まる方々には最後のセーフティネットである生活保護の利用を勧めますが、「家族や親類に知られるので生活保護だけは受けたくない。他に救済制度はないか？」「生活保護は娘が反対する。でも、本当に生活が苦しいので助けてほしい」といった方々も少なくありません。「生活保護は権利です」という政府と相変わらずの水際作戦を展開する自治体との温度差はまだまだ解消されていません。社保協として今後も粘り強く保護行政の改善にむけた運動と困窮者に寄り添う活動を展開して行きたいと思います。

（北九州市社保協事務局　岡本）

8/19 学校ウォッチング（第13回）を実施へ

6月30日、今年で第13回目となる学校ウオッチング北九州全体会議が戸畑生涯学習センターで開催され28名が参加しました。

昨年は新型コロナウイルス感染症の影響のため学校の夏休み期間が短くなり実施ができませんでした。今年は8月19日（木）に各区2校を選抜して実施することになりました。

会議では、「一昨年の視察結果要望に対する教育委員会の回答の多くが『必要であれば、施設課に相談するように』となっており、その後どうなったのか、結果を調べてほしい」「この取り組みを、学校側からＰＴＡの役員の方へ知らせてもらうよう働きかけてはどうか、」などの意見が出され、教育委員会へ要請することにしました。

今回の視察する学校名を選抜しましたが、教育委員会との最終調整を行い、各団体を通じて早急にお知らせします。８月１９日の参加要請を各区の代表者から行います。ご協力ください。

土地利用の区分見直し問題を考えよう

今年の平和のための戦争展は７月10日のみの開催となりました。会場は黒崎コムシティ７階のこどもホールです。パネル展示も同階で行います。ぜひ、ご来場ください。

※新型コロナウイルス感染拡大のため、入場制限をおこなうこともあります。

「語り部」の平島さん、江藤さん　　「青年の主張」の今坂さん

新しい未来を切り拓く機会にしよう

2年ぶりの開催となった、第26回「2021平和のための戦争展in北九州」が7月10日、八幡西区の黒崎コムシティで開催され、約180人が来場しました。当初は2日間の開催予定でしたが、一部会場が新型コロナウイルス感染症のワクチン接種のため使用できなくなり、規模を縮小して実施しました。

三輪俊和・戦争展実行委員長は「戦争展を開けたことを、皆さんに感謝したい。菅政権は国民の命を後回しにして、オリンピックを強行している。国民を分断して、この混沌とした中で、じわりじわりと戦争への道を歩もうとしている。私たちは我慢するだけではなく、声を上げないといけない。私たちの力で変える、平和な民主的な国を私たちの力で作る可能性がある時代に私たちは生きている。今日の戦争展で、戦争の悲惨さ、平和の尊さを学び、心を一つにして新しい未来のために大きな歴史の大道を開くよう、そういう機会にしてもらいたい」と挨拶しました。

平和のうたごえは「民衆の歌」など数曲を披露し、「戦争の語り部」では、久留米・筑後支部の平島 節郎さん （93歳）と、新日本婦人の会八幡支部長江藤和子さん （76歳） が戦時中、戦後の自らの体験を話しました。青年の主張はKOHO株式会社の今坂千鶴さんが登壇し、先日訪れた北九州平和資料館（若松区）で学び感じたことを紹介し、戦争体験をどう語り継いでいくのか、問題提起しました。パネル展示はスペース縮小のため、展示数は減りましたが、北九州平和資料館所有の戦争遺品や、反核医師の会作成のパネル、原爆写真が展示され、多くの来場者が説明文を熱心に読んでいました。

平島さんは男子は兵隊に行くのが当たり前という雰囲気の中、終戦1年前、15歳で海軍航空隊に志願。大分航空隊で射撃訓練の時、終戦をむかえました。戦後、大学に進んだ先輩から日本が戦争に進んだ歴史を聞き、「戦争は間違っていた。平和が大事との思いを一層強くした」。戦死した兄、自死した兄嫁への思いも話し、「このことは今でも頭から離れない」といい、戦争の悲惨さを語り継ぐ決意を示しました。

江藤さんは3歳の頃、終戦直前、1945年8月8日の八幡大空襲で孤児になり、修道女の方に助けてもらいました。その後は、教会の施設で過ごしました。今でも実の両親や兄弟がいたかどうかなどは分からないまま。「戦争があったから私は孤児になった。戦争だけはいけないと強く思っている」と江藤さん、平和のことを伝えることが「使命」と信じ、新日本婦人の会での活動に取り組んでいます。

今坂さんは 、北九州平和資料館をともに訪れた同僚社員の感想も紹介し、「子どもたちにたくさんきてほしい。資料館のことをもっと拡散して、多くの人に知らせましょう」と提案しました。

参加者からは「『今だから聞ける生の声をたくさん聴きたい』と思って来ました。平島さんの話を聞きながら、教育の持つ力をあらためて感じています。今の学校にも少しずつ戦争の影が忍び寄ってきているのかもしれない。江藤さんの話では、人間の温もりを、平島さんの話しでは人間の弱さ、怖さを感じました」「平和資料館の役割がいかに大切かと若者の声を聞かせてもらうことでよくわかる。もっと若い世代に知らせたい」「ぜひ次回は『青年とともに語り合う戦争と平和』座談会を開いてほしいと思いました。きっと話は尽きないと思います」など、多くの声が寄せられました。

門司港
複合公共施設

問題山積の建築計画

白紙に

門司港複合公共施設（区役所、図書館、市民会館など統廃合）

問題山積の計画は白紙に！

北九州市は、門司港地区にある門司区役所、港湾空港局、市民会館、勤労青少年ホーム、門司生涯学習センター、図書館の施設を門司港駅周辺に集約した複合公共施設の建設をすすめています。ところが、下記の４つの重大な課題が無視されてすすめられています。

クルクル変わる計画

1 建設費 64 億円⇒79．5 億円にふくれる

市の基本計画では整備費は６４億円だったものが、2021 年３月には突然７９．５億円と１５．５億円も増額されました。2020 年２月議会で、施設配置の見直しによって整備費の変更についての質問に「基本設計は 64 億円を上限に」と答えていました。ＪＲの移転施設が決まって、通路確保のために増額したことの理由をのべていますが、あまりにすさんな計画となっています。

2 ＪＲ用地を借地⇒土地購入へ

建設予定地の当初計画はＪＲ九州からの借地、借地料は年間３０００万円で６０年間では１８億円となります。そのうえ施設の移転費に１０億円かかります。

市は議員の質問に対して「ＪＲから土地の購入を検討」と言い出しました。まず現在ある市の用地を有効活用し、新たな土地購入などで財政負担はすべきではありません。

災害・交通問題がクリアーされず

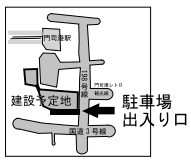
3 高潮による4m浸水区域に門司区役所 ?!

建設予定地の門司港駅付近は高潮による４ｍの浸水区域であるにも関わらず、防災拠点となる門司区役所を建設するのは問題です。電気設備を上階に設置すれば済むというものではありません。防災の重要拠点を設置する場合は、災害が想定される地域は避けるべきです。

4 交通渋滞 ?!

国道３号と 198 号交差点横に駐車場出入口

建物の上階に 340 台規模の駐車場を予定しています。建設予定の駐車場入り口は、国道３号と１９８号との交差点に接近しており、交通渋滞が懸念されます。こうした場所への建設は再検討が必要です。



平和とくらしを守る門司区民の会　連絡先　門司区高田町２-３-17　☎090-1366-1556（能美）

ウラ面もご覧ください

こんなのはじめて！ 門司港複合公共施設建設

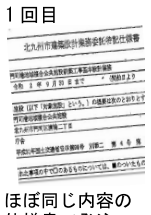
2度の基本設計発注

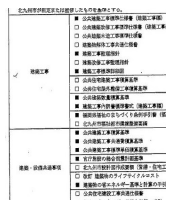
1 回目	2019 年 10 月	8999 万円	石本・海渡建設共同企業体	落札
2 回目	2021 年 6 月	1470 万円	大建・川原建設共同企業体	

門司港地区の区役所や市民会館、図書館、生涯学習センターなどの公共施設を門司港駅周辺に集約し、複合施設として建設するものです。上記のように２度の基本設計を行っています。２度目の基本設計ー般競争入札の予定価格は 6423 万円でした。ところが落札は 1470 万円で予定価格の 22.9%でした。国土交通省は令和元年に公共工事の品質確保のために指針を改正し、ダンピングを防止するための最低制限価格設定を行うようにしていますが、北九州市は改正を無視したものとなっています。

市は２回目を「検証」業務というけれど…

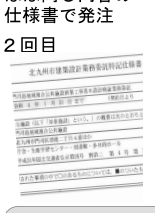
1 回目

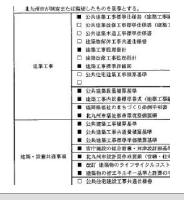




ほぼ同じ内容の仕様書で発注

2 回目





２度の基本設計への批判に対して、市は「基本設計の成果を活用し、基本設計案の課題の改善に向けて対案（基本設計案と同等の水準）を作成するもの。作成した対案は市で基本設計案と比較し、よりよい計画と判断した案で今後の事業を進めていく」検証業務としています。

建築専門家は「考えられない」

今回の２度に及ぶ基本設計の発注に建築専門家からは「通常、建物の設計は基本設計中に予算超過や設計条件に変更があれば、その都度修正を加えて基本設計を終了し、今回のように、基本設計が終わった後に、その設計内容に対して特別な検証を行うことはない」という意見が出されています。

本市でも再度入札して基本設計や検証業務は行った前例がないとしています。多額の予算を計上して行う検証業務は前代未聞だということになります。

発注者の責任 ?! 税金の使い方が問われています

令和３年２月議会で市当局は、「今回の増額（15.5 億円）は申し訳なくお詫び申し上げます。JR 九州の補償施設が移転する場所が決まっていない中で、基本設計を進め、その後に決まった移設場所のために面積が２００㎡削られ、駐車場が一層分追加になることが一つの増額要因になったことは間違いがない」と答弁しているように、基本設計を２度行うことになった原因がＪＲ土地問題であり説明が必要です。また、税金の使い方でその責任が問われています。